

### 396 実験腫瘍における<sup>67</sup>Ga-citrate の光顕及び電顕オートラジオグラフィ

宋 景泰、石川博通、高見勝次、奥野宏直（日生病院・整）  
松本茂一、日高忠治、中井俊夫（同・放）  
越智宏暢（大阪市大・放）

<sup>67</sup>Ga-citrate を用いた腫瘍シンチは悪性腫瘍の診断に有効であり、整形外科領域でも広く用いられている。今回、我々は、家兎大腿部筋肉内に移植した実験腫瘍を用いて<sup>67</sup>Ga-citrate の集積分布をシンチグラム、ウエルタイプシンチレーションカウンタによる放射活性の測定及び光顕・電顕オートラジオグラムによって検討を行った。

腫瘍シンチでは、大腿部腫瘍に一致して<sup>67</sup>Ga-citrate の強い集積を認めた。

ウエルタイプシンチレーションカウンタによる放射活性の測定では、正常筋肉部分を 1 とすると、単位体積当りの集積比は、腫瘍辺縁部では 16、腫瘍中央部分では 9 であり、単位重量当りの集積比は、腫瘍辺縁部では 11、腫瘍中央部分では 7 であった。

光顕及び電顕オートラジオグラムでは、腫瘍細胞内、とくに細胞質内に多くのグレインが観察された。

### 398 動物における腫瘍と炎症の Ga-67 代謝に及ぼす鉄投与の影響

若尾博美、小林雅人、大塚 均、東 与光（神奈川歯大 放）

腫瘍と炎症への Ga-67 の取り込みの機構は、ことなると言われている。そこで、腫瘍および炎症に取り込まれた Ga-67 が鉄投与によりどのように影響されるかを比較検討してみた。

家兎の右足に VX-II 腫瘍を、左足に *Staphylococcus aureus* 注射による炎症巣を作製した。Ga-67 注射 24 時間後にクエン酸鉄を注射して、シンチカメラで両病巣に ROI を設定して Ga-67 の排泄を経時的に記録した。腫瘍では、クエン酸鉄注射により 10 分、20 分後と却つて一時的に増加し、その後すみやかに減少して 6 時間後では、対照の 3/4 に減少した。一方、クエン酸鉄注射による炎症巣における Ga-67 の変動は、腫瘍の場合より少なかつた。すなわち、クエン酸鉄注射による炎症巣への一時的な上昇はわずかであり、また、6 時間後でも炎症巣からの Ga-67 の減少はほとんどみられなかつた。

以上の結果から、腫瘍および炎症巣の Ga-67 代謝に及ぼす鉄の影響は、それぞれ異なるように思われた。

### 397 培養腫瘍細胞の Ga-67 取り込みに及ぼす Ouabain の影響

小林雅人、山口益司、若尾博美、東 与光（神奈川歯大 放）

私たちは、腫瘍細胞への Ga-67 取り込みと細胞機能との関係を知るため、培養腫瘍細胞を用いて、ATPase 活性を特異的に阻害する Ouabain を投与して腫瘍細胞への Ga-67 取り込みに及ぼす影響を検討した。

実験に用いた腫瘍細胞は、マウス白血病細胞（Y-5178 株）である。この腫瘍細胞への Ga-67 の取り込みを経時的に測定すると、Ga-67 は、徐々に腫瘍細胞に取り込まれ約 20 時間でピークに達した。つぎに、Ouabain 0.01mM/ml をさきの培養液中に加えると、腫瘍細胞の増殖は、ほとんど抑制された。また、Ga-67 の腫瘍細胞への取り込みは、対照に比べて Ouabain 投与により約 1/3 に減少した。さらに、Ouabain 投与された腫瘍細胞の ATP 量をルミノメーターで測定すると、対照よりやや減少していた。以上の結果から、腫瘍細胞への Ga-67 の取り込みは、細胞の ATP 量と何らかの関係があるようと思われた。今後、いろいろの条件についてさらに検討してゆきたい。

### 399 Ga-67 の体内分布と鉄代謝 (II)

中野俊一、長谷川義尚、井深啓次郎、橋詰輝己、野口敦司（大阪府立成人病センター R I 科）  
置塩達郎、石上重行（同 内科）

我々は人において Ga-67 の尿中排泄および肝へのとりこみが血清不飽和鉄結合能 (UIC) と有意に相関することを報告して来た。Ga-67 の動物腫瘍へのとりこみは血清 UIC と相関するという成績と、反対に動物腫瘍にはトランスフェリンと結合しない Ga-67 がとりこまれるという成績が報告されている。今回我々は Ga-67 スキャンを行った肝細胞癌と悪性リンパ腫の症例で Ga-67 の腫瘍へのとりこみと UIC との関係についてしらべた。肝細胞癌においては肝硬変の合併や消化管出血などのため、治療前の症例においても UIC は広い分布を示し、Ga-67 スキャン陽性例について ROI 法により計測した結果、腫瘍への Ga-67 のとりこみと UIC との間には正の相関がみとめられた。悪性リンパ腫においては、UIC の増加した例では、Ga-67 は腫瘍によくとりこまれた。UIC の減少を示したのは治療中の例で、抗癌剤による骨髄抑制の結果と考えられる場合が多いが、腫瘍の残存している例では、Ga-67 のとりこみがみとめられた。